

2040年の奈良県・各市町村の将来推計人口

国立社会保障・人口問題研究所がまとめた「日本の地域別将来推計人口（2013年3月推計）」によると、2010年の人口を100とした場合、2040年の奈良県の人口指数は78.3と約3/4の水準にまで減少します。2040年に人口が半減する市町村数は、奈良県が11町村と近畿の中で突出して多くなっています。また、65歳以上人口の割合が50.0%以上となるのは、奈良県が9町村と近畿で最多となっています。

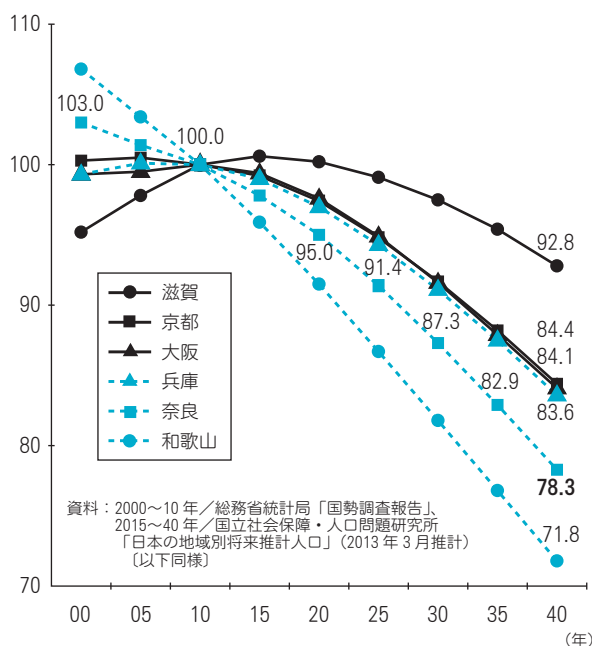
1. 都道府県別の将来推計人口等

「日本の地域別将来推計人口（2013年3月推計）」によると、日本の総人口（外国人を含む）は長期にわたって減少が続き、2020～25年以降は全ての都道府県で減少し、2040年には全都道府県で2010年の水準を下回る。2010年の人口を100とした場合の2040年の人口指数は、奈良県は78.3と約3/4の水準にまで減少する（減少率21.7%は全国21位）。

*参考：滋賀県92.8、京都府84.4、大阪府84.1、兵庫県83.6、和歌山県71.8〔全国83.8〕。

65歳以上人口、75歳以上人口は、大都市圏と沖縄県で大幅に増加。特に埼玉県と神奈川県では、

近畿各府県の人口指数の推移〔2010年=100〕



2040年の75歳以上人口が2010年の2倍以上となる。2040年に65歳以上人口の割合は、最大が秋田県（43.8%）、最小が沖縄県（30.3%）。75歳以上人口の割合は、最大が秋田県（28.4%）、最小が東京都（17.4%）となる。

2. 県内の一部市町村で大幅な人口減少が進む

2040年の奈良県の人口指数（2010年=100）は78.3にまで減少するが、市町村別の状況を見ると、進展度合いに大きな乖離がみられる。

県全体の78.3を上回るのは8市町で、香芝市が108.1と最も高く、次いで生駒市94.2、葛城市90.8と続いている。一方、同数値を下回るのは31市町村で、川上村が32.1と最も低く、次いで東吉野村34.2、野迫川村41.2、吉野町41.9と続く。市部に限ると宇陀市が56.0と最も低く、次いで五條市57.7、御所市が58.5と続いている。

近隣他府県で2040年に人口が半減する市町村数は、滋賀県0、京都府3、大阪府0、兵庫県0、奈良県11、和歌山県4と、奈良県が突出して多い。また、人口指数が40.0未満の地域があるのは奈良県のみ（2村）である。人口を実数で見ると、人口500人未満の地域があるのは、奈良県3村（野迫川村216人、上北山村319人、黒滝村377人）、和歌山県1村。500人～1000人未満は、京都府1町、奈良県6村（川上村527人、下北山村545人）となっている。

3. 県内の一部市町村で高齢化が大幅に進展

2040年に奈良県全体の65歳以上人口の割合は

38.1%となるが、市町村別の同割合が50.0%以上となるのは9町村で川上村が64.1%と最も高く、香芝市30.2%が最も低い。なお、近隣他府県で同割合が50.0%以上の市町村数は、和歌山県6、京都府4、大阪府3、滋賀県・兵庫県0である。

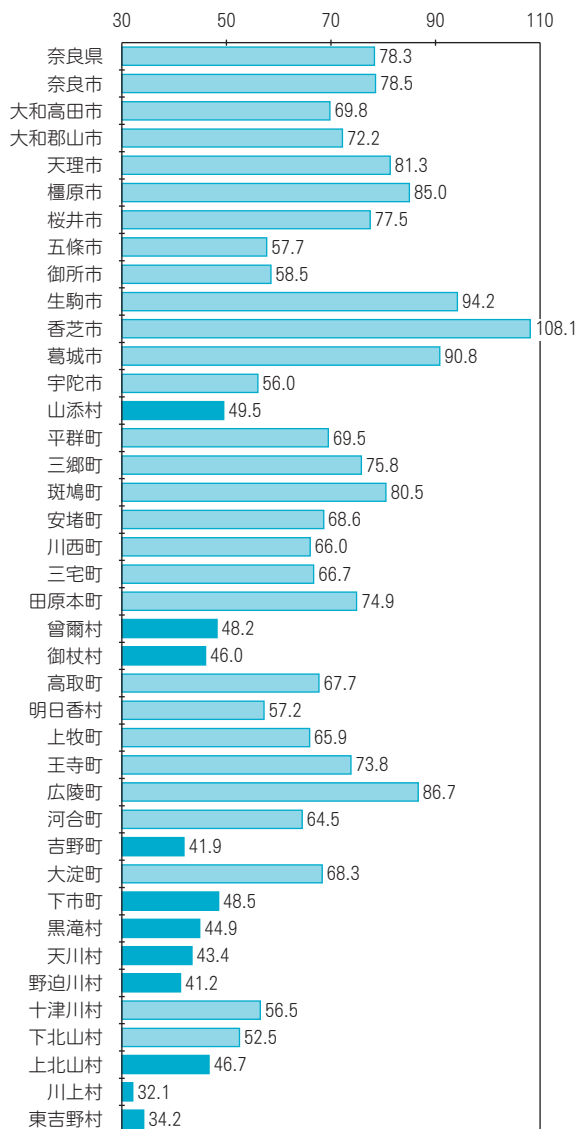
2040年の75歳以上人口の割合は、奈良県は22.5%だが、同割合が40.0%以上の市町村は、川上村47.1%、東吉野村46.7%等の4町村。なお、近隣他府県で同割合が40.0%以上の市町村数は、和歌山県1、滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県は0。

行政の効率化・安定化のためには、市町村合併の推進も不可欠になるとと思われる。（島田清彦）

奈良県市町村の75歳以上人口の割合
【上位10市町村：2040年降順】 (%)

	2010年	2025年	2040年
奈良県	11.1	19.8	22.5
川上村	30.7	41.4	47.1
東吉野村	30.3	41.1	46.7
吉野町	21.9	33.4	41.8
天川村	28.6	30.4	40.1
曾爾村	22.8	30.3	38.1
山添村	21.9	30.6	37.8
御杖村	26.7	34.4	37.8
下市町	20.4	28.7	34.9
明日香村	17.0	26.7	34.1
黒滝村	27.4	31.2	33.4

2040年・奈良県市町村別人口の指数【2010年=100】



2040年・奈良県市町村別65歳以上人口の割合 (%)

